

# 第1回会議における主なご意見とビジョン案への反映のポイント

- 「1-2 DXと「まちづくりDX」の定義」について
- 「1-3 まちづくりDXの必要性」について
- 「1-4 まちづくりDX原則の考え方」について
- 「1-6 まちづくりDXの役割分担とケイパビリティ強化」について
- 「2. まちづくりDXの3つのビジョン」について
- 「3. まちづくりDX実現のための重点取組テーマ」及び「4. まちづくりDXのロードマップ」について

## 「1-2 DXと「まちづくりDX」の定義」について

### 主なご意見

- デジタル化とデジタル・トランスフォーメーションは違う、デジタル化(データ化、見える化、知識化、モデル化)により都市を変質・変革するのがDXであることに改めて留意する必要がある。(出口座長)
- 都市はすべての人をまちづくりのパートナーとできるような分散型のプラットフォームとなることが必要。オープンに様々な人がまちに参画し、それぞれの文化と経済の両輪で特徴を形作っていくためにこそ、まちづくりDXが必要。(齋藤委員)
- 都市は他者とインタラクションが生まれる場所として、イノベーションのプラットフォームになるのではないか。(水野委員)

### 反映のポイント

- 1-2「DXと「まちづくりDX」の定義」に「(2)今後のまちづくりの方向性」を追加し、DXが変革を伴うことを明確化。
- 1-2「DXと「まちづくりDX」の定義」に「(2)今後のまちづくりの方向性」を追加し、まちづくりがプラットフォームとしての価値を有することを明確化。

## 「1-3 まちづくりDXの必要性」について

### 主なご意見

- まちづくりDXの意義についていきなり「DXの必要性」となるのではなく、デジタル化の必要性がまずあって、それをやった先にDXの可能性があるのではないか。デジタル化の必要性と、その後のDXの可能性と意義という形で整理していただくと、今日の議論がすっきりするのではないか。(出口座長)

### 反映のポイント

- 1-3「(1)まちづくりのデジタル化の現状」を追加し、我が国のまちづくりにおけるデジタル化の現状について整理した。
- 1-3「(2)まちづくりDXの必要性」を修正し、デジタル化のみならず、DX(変革)が必要な背景を整理した。

## 「1-4 まちづくりDX原則の考え方」について

### 主なご意見

- 国・行政から企業・学・市民という形の一方向のオープンデータの流れが非常に強いということを危惧している。産・官・学・市民がきちんと関わる仕組みをつくり、例えば「PLATEAU」を企業が使うだけでなく、使う企業側からいろいろな形でフィードバックをきちんと出していくことが大事なのではないか。(古橋委員)
- オープンデータはコモンズであるという考えが重要。BtoGのデータ提供がなかなか進まない実態へのアプローチを考えるうえで、EUのデータ法の考えが参考になる。(水野委員)
- オープンデータを推進していくためには、オープンデータの原則である、**二次利用・複製・再配布可能、許諾不要、商用利用可能の3点を抑えることが重要**。(古橋委員)
- 利用制限がないというオープンデータの定義を明確化することが重要。(水野委員)
- DXで様々なものをつなげるため、散在しているデータや技術をつなげるための標準化が重要。(齋藤委員)
- 標準化により官民でデータを使えるようにしていくことが国の役割として期待される。(清水委員)

### 反映のポイント

- 「官民連携」に説明を追加し、オープンデータ提供は産官学それぞれの貢献によることを明確化。
- 「Open by Default」に説明を追加し、データはコモンズであることを明確化。
- 「Open by Default」に説明を追加し、政府のオープンデータ基本指針に則ることを明確化。
- 「Open by Default」に説明を追加し、データモデル標準化を追記。

## 「1-6 まちづくりDXの役割分担とケイパビリティ強化」について

### 主なご意見

- 現状、エリアマネジメントと言ったときに、エリア経営的な話と、エリアマネジメント団体・組織の活動の話が混在してしまうが、そこはぜひ避けて議論していきたい。(重松委員)
- いろいろなものをつなぎ合わせて機能させるという役割がエリアマネジメント組織にはあって、それが民主導ということなのではないか。(重松委員)
- 「エリア経営」には公共空間を含むため、公共団体に経営者がいないということは考えにくい。民間が主導してまちづくりをやってくれればいい、という形での関わりではなく、公共団体がよりしっかりと共同経営的に入っていく必要がある。(重松委員)
- データはいかにいろいろなものをつなぎ合わせて機能を果たすかという、サービス部分が非常に重要。そのため、まちづくりのデジタル・インフラは使い方を考えてつくる必要があり、エリアマネジメント組織も含め公・民での使い方を考えた上でデータを設計するという関わり方が必要。(重松委員)
- 公共データのオープンデータ化を進めるためにも、どのようにデータが使われたかのフィードバックを得られるような仕組みがあると良い。(清水委員)

### 反映のポイント

- 「1-6 まちづくりDXの役割分担とケイパビリティ強化」において、まちづくり団体と地方公共団体の各役割の位置づけを明確化。
- あわせて「3. まちづくりDX実現のための重点取組テーマ」の「3-2 エリアマネDX」におけるエリアマネ定義の修正。
- 「1-6 まちづくりDXの役割分担とケイパビリティ強化」において、エリア内データの提供等についての官民の双方向性の重要性について追記。

## 「2. まちづくりDXの3つのビジョン」について

### 主なご意見

- まちづくりDXには、「都市評価のDX(住民モニタリングによる直接評価:QoL評価)」や「参加のDX(住民と企業のマッチング、リビングラボ)」といった観点も重要。(出口座長)
- まちづくりにおける国の役割の一つとして、評価指標を策定するということがある。(宇野委員)
- まちづくりは人間が行うものである以上、データを基に最適化するだけでなく、非最適化のような考え方も重要になる。(吉村委員)
- 今日の都市において重要なのは人の豊かさ、いのちの豊かさ(Well-being)。そのためには、ハードウェア中心では均一化してしまう。ソフトウェアへシフトし、人に着目したコンセプトやビジョンが重要。(齋藤委員)
- 都市の同質性をいかに回避するかという課題については、エリア単位での取組が重要性を持つのではないか。(重松委員)
- Well-beingとは選択できるということ。住民がどのようにまちと関わっているか、自分で制御できているかということは、DXによって可視化され、実装されていく。(齋藤委員)

### 反映のポイント

- 「2. まちづくりDXの3つのビジョン」において、各ビジョンの考え方の精緻化を図り、2-3において「都市評価のDX」や「参加のDX」の位置づけを明確化した。
- 2-1「持続可能な都市経営」において最適かつユニークな都市空間再編を目指す旨を明確化。
- 2-2「ひとり一人に寄り添うまち」において地域それぞれの魅力を高めることの重要性を位置づけ。
- 2-2「ひとり一人に寄り添うまち」において都市の役割として選択肢の提供を明確化。

## 「2. まちづくりDXの3つのビジョン」について

### 主なご意見

- 市民やステークホルダーが自分事としてまちづくりに参画するようなシステムを作っていくことが重要。(宇野委員)
- 一つのまちを支えるのは、実は少数の熱狂的なファンということもあるのではないか。(齋藤委員)
- まちに個性を出すためにはエネルギー・熱意のある方の巻き込みが大切。OpenStreetMapなどのように、まちを好きになる活動のエネルギーにコモンズ概念を適用していく仕組みが必要ではないか。(瀬戸委員)
- まちづくりのDXを既存の都市計画と対比させてどう考えるか。長いスパンの都市計画見直しと、短いスパンでのアクション・リアルタイムな動きを組み合わせることが必要。(出口座長)
- まちづくりDXの取組がうまく回っていくためには「PDCAサイクル」だけでなく「OODAループ」を回していくことが重要。(古橋委員)

### 反映のポイント

- 2-2「ひとり一人に寄り添うまち」において住民参画のを位置づけ。
- 2-3「機動的で柔軟な都市設計」において短周期データの活用を位置づけ。
- 個別の施策としても(1-4) にデータを活用した柔軟な都市アセットの利活用を位置づけ。
- 2-3「機動的で柔軟な都市設計」においてOODAループも含めたアジャイル手法の取込みについて位置づけ。

## 「3. まちづくりDX実現のための重点取組テーマ」及び「4. まちづくりDXのロードマップ」について

### 主なご意見

- 第3章の重点取組テーマや第4章のロードマップについては、都市局以外の実施主体を巻き込んだ計画とすることが重要。(出口座長)
- 各局の役割や、他省庁に求めるデータ等について明確化したほうが良い。(齋藤委員)

### 反映のポイント

- 「4. まちづくりDXのロードマップ」において他省庁等と連携する施策についてはその旨を明記した。